

泣いても、泣いても
溢れ出す、君への想い。

土井裕泰 監督作品

涙そうそう

妻夫木聡

長澤まさみ

麻生久美子
塚本高史
中村達也
平良とみ
森下愛子
大森南朋
船越英一郎 (友情出演)
橋爪 功
小泉今日子

製作:八木康夫
脚本:吉田紀子
音楽:千住 明
主題歌:「涙そうそう」夏川りみ (ビクターエンタテインメント)
挿入歌:「三線の花」BEGIN
プロデューサー:濱名一哉 那須田淳 進藤淳一

撮影:浜田 豊
美術:小川富美夫
照明:松岡泰彦
録音:武 池
編集:徳川順之助
助監督:猪俣弘之
記録:鈴木一美
製作担当:森 太郎
ライン・プロデューサー:坂本忠久

製作:「涙そうそう」製作委員会
(TBS / アニメーション / 東宝 / ホリプロ / TBS R&C / MBS)
製作協力: **アール・エス・ビー**
配給:東宝

©2004「涙そうそう」製作委員会

   

www.nada-so.jp

携帯オフィシャルサイト
www.tbs.co.jp/nss/



いつも見守り、「がんばれ」と励ましてくれる。

そんな、あなたの“一番星”は誰ですか？

——名曲「涙そうそう」から生まれた、恋より切ない愛の物語——

誰からも親しまれ、愛されている名曲「涙そうそう」をモチーフに、切なくも美しい、愛の物語が誕生しました。沖縄に生まれ育った、“血のつながらないふたりの兄妹”、洋太郎とカオルの小さな歴史の物語。ともに暮らす時間は永遠ではなかったけれど、それは笑顔に溢れ、何よりもお互いを思いやった、かけがえない日々。“兄ィニィ”がカオルにくれた、大きな人間の愛を、「いま、会いにゆきます」の土井裕泰監督が、繊細なタッチで真摯に描き出します。

いつも笑顔を決やさない、素朴で心優しい兄・洋太郎役に、人気・実力ともに日本映画界を代表する若手俳優・妻夫木聡。持ち前のナチュラルな魅力とさわやかな存在感を生かし、頑張り屋で誰からも好かれる青年を演じます。妹・カオル役には「タッチ」「ラフ」と、主演作が続く逸材・長澤まさみ。兄のまっすぐな愛情を一身に受けて、すすくと育ち、明るくけなげに生きる妹の姿を、透明感たっぷりに演じています。また、そんな兄妹を取り巻く人々を小泉今日子をはじめ、麻生久美子、塚本高史、中村達也、平良とみ、森下愛子、大森南朋、船越英一郎、橋爪功など、豪華俳優陣が演じるのも話題です。舞台となる沖縄の雄大な自然を背景に、涙と笑顔のかけがえない人間ドラマが、すべての人の心へ感動を届けてくれます。

主題歌は、「涙そうそう」。BEGINが作曲した心に残るメロディに、森山良子が情感を込めた詞をのせ、98年に誕生したこの曲は、01年に夏川りみによってカバーされ、累計100万枚を超える大ヒットを記録しています。また、「涙そうそう」に寄り添うように、BEGIN「三線の花」が挿入歌として使われています。

「涙そうそう」とは、沖縄の方言で、「涙がとめどなく流れる、ポロポロ止まらない」という意味。泣きたいときは、我慢しないで、思いっきり泣けばいい。泣くだけ泣いたら、もう一度明日に向かって歩き出そう…。涙に洗い流された素直な心には、希望が浮かび上がり、きっと温かく優しさに溢れる感動が沁み渡るはずです。

——この秋、永遠に心に残り続ける新しい涙と感動が日本中を包み込みます。



ひとりぼっちのカオルを、どんなことがあっても守ってあげる——。

2001年、沖縄。いつか自分の飲食店を出すという夢を持ち、ひたむきに生きる働き者の青年・新垣洋太郎（妻夫木聡）。沖縄の青空のように明るく、おおらかな性格の洋太郎だが、この日はいつも増して陽気で、仕事をしながらたえず笑顔がこぼれている。それもそのはず、洋太郎が誰よりも大切にしている妹のカオル（長澤まさみ）が、高校に合格し、オバアと暮らす島を離れ、本島にやって来るのだ——洋太郎が8歳の頃、母・光江（小泉今日子）の再婚によって、洋太郎の妹になったカオル。だが、義父は姿を消し、母も幼い兄妹を残して天国に旅立ってしまった。以来、洋太郎は、「カオルはひとりぼっち、どんなことがあっても守ってあげるのよ」との母の遺言を胸に生きてきたのだ——。

そして今日から、ふたりは、洋太郎のボロアパートで一緒に暮らし始めるのだ。船着場にカオルを迎えにいく洋太郎は、久しぶりの再会を前に、どこか落ち着きがない。そんな洋太郎を見つけて、満面の笑みで手を振るカオル。無邪気に兄を慕う様子は昔のままだが、16歳になったカオルの大人びた美しさに、洋太郎は驚き、呆然とする。ふたりっきりの兄妹の切なくも儂い小さな歴史が始まった…。

